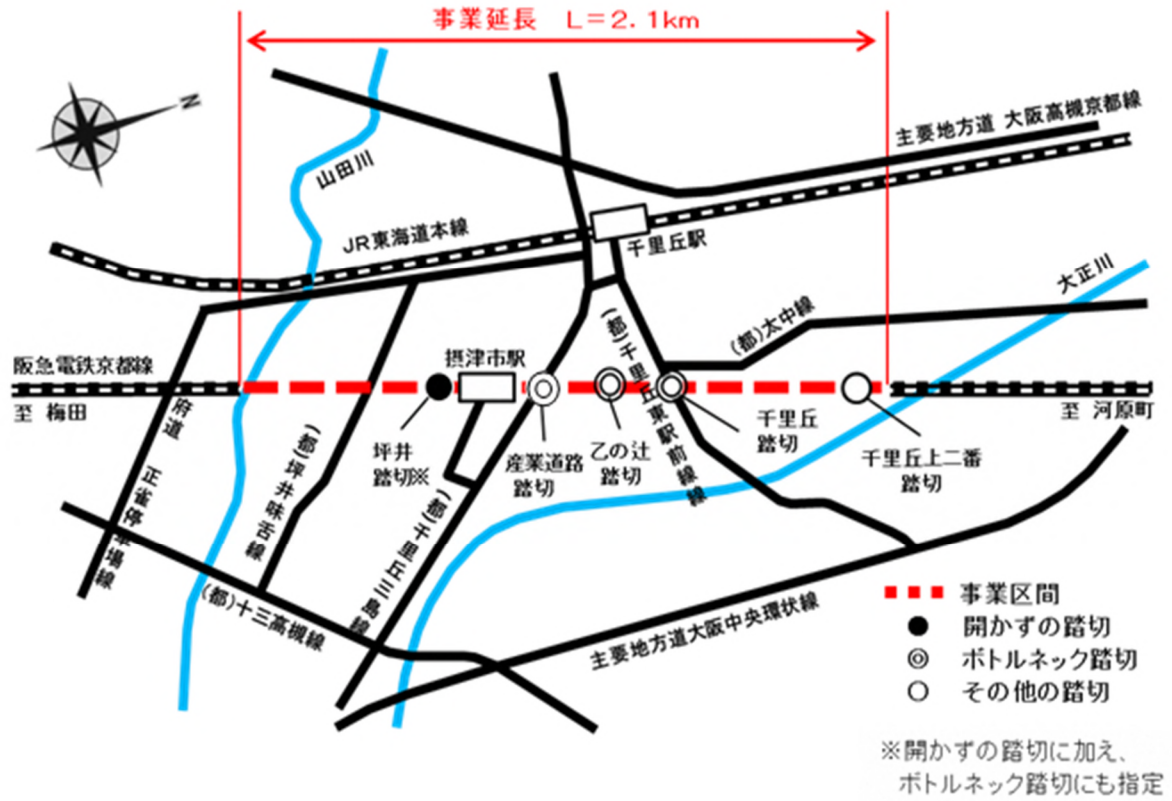


再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：都市局 街路交通施設課
担当課長名：服部 卓也

事業名 連続立体交差事業 阪急電鉄京都線（摂津市駅付近）	事業区分	連続立体交差	事業主体	大阪府
起終点 自：大阪府摂津市庄屋 至：大阪府茨木市丑寅			延長	2.1 km
事業概要 阪急電鉄京都線の摂津市駅付近約2.1kmにおいて鉄道を高架化することにより、5箇所の踏切を除却し、都市内交通の円滑化を図るとともに、分断された市街地の一体化による都市の活性化を図る事業。				
H29年度事業化		H28年度都市計画決定		H30年度用地着手
全体事業費 約508億円		事業進捗率 約14%		供用済延長 — km
計画交通量 188,751台時/日（踏切交通遮断量）				
費用対効果	B/C （事業全体） 1.9 （残事業） 2.4	総費用 (残事業)/(事業全体) 343/426億円 事業費：343/426億円 維持管理費：0.3/0.3億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 810/810億円 移動時間短縮便益：705/705億円 走行経費減少便益：90/90億円 交通事故減少便益：15/15億円	基準年 令和5年
感度分析の結果 （事業全体）交通量：B/C=1.7~2.1（交通量±10%） 事業費：B/C=1.8~2.1（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.9~2.0（事業期間±20%） （残事業）交通量：B/C=2.1~2.6（交通量±10%） 事業費：B/C=2.2~2.6（事業費±10%） 事業期間：B/C=2.3~2.5（事業期間±20%）				
事業の効果等 ・踏切除却により踏切事故が解消される。 ・踏切除却及び渋滞緩和により緊急車両の通行が容易になる。 ・駅及びその周辺施設の整備にあわせバリアフリー化が促進されるなど。				
関係する地方公共団体等の意見 沿線の摂津市より早期の事業完成の要望を受けている。				
事業評価監視委員会の意見 継続について妥当である。				
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等 周辺環境等に特に変化はない。				
事業の進捗状況、残事業の内容等 用地取得率約71%、事業進捗率約14%				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 残る用地の取得を継続しており、事業の早期完了を目指し、鋭意進捗中。				
施設の構造や工法の変更等 現在、鉄道施設設計中であり、鉄道事業者とコスト縮減について協議していくとともに、今後も新技術の採用や工法の見直しによる工事コストの縮減等、総コストの縮減に努めていく。				
対応方針		事業継続		
対応方針決定の理由		事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。		

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価値を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳と一致しないことがある。